



「できた！」

No. 5

文責 校長 木下和敏

感染防止と熱中症対策について ～マスク着用の効果と影響から～

報道によると、新型コロナウイルスの感染者数は、日々、増減を繰り返しているような状況です。感染は子どもを含む若年層に多くみられるとのことで、決して油断することはできません。流行しているオミクロン株は感染力が強く、マスクなどの予防対策をとっていても学校内で感染がみられたケースもあると聞いています。学校では引き続き、感染予防に努めていきます。

ゴールデンウィークが終わり、最高気温が25℃を超す日が増えてきました。この時期に最も心配なのが「熱中症」です。熱中症は、高温多湿な環境に身体が適応できないことで生じる様々な症状の総称で、具体的には、「めまいや顔のほてり」「筋肉痛や筋肉のけいれん」「体のだるさや吐き気」「異常な汗のかき方」「体温が高い、皮膚の異常」などで、症状が重い場合は、「呼びかけに反応しない」「まっすぐ歩けない」「水分補給ができない」など危険な状態になるといわれています。

昨日、厚生労働省の専門家組織「アドバイザリーボード」から、マスクの着用について、屋外で周囲との距離が十分に確保できない場合でも会話がほとんどなければ「必ずしも必要ない」との見解が出されました。

学校では子どもの健康と命を守ることから、マスクの着用について、右下のように取り組みたいと考えています。ただし、体調が思わしくない場合や感染に対する不安がある場合は、随時、マスク着用をさせていただいても結構です。

マスク着用の見解ポイント

- 公園でのランニングや自転車での移動など、屋外で周囲との距離が十分に取れる場合は着用は必要ない
- 屋外で周囲との距離が十分に確保できなくても、会話が少なければ必要ない
- 多数の人が利用する公共交通機関での通勤や通学では着用する
- 小学校などの屋外での体育授業や休憩時間中の運動遊びでも、距離が取れば着用は不要
- 保育園児など2歳以上の未就学児の着用は一律には求めない

出典：産経新聞 5/19

【学校での取り組み（熱中症が懸念される期間）】

- ① 校舎内では引き続き、マスク着用、手洗い、換気などの基本的な感染対策は継続していきます。
 - ② 体育の学習の際は、マスクの衛生管理上、教室でマスクを外して移動し、学習に取り組みます。十分な間隔が取れない場合は、「おしゃべりをしない」「向き合わない」などの感染予防を指導します。昼休みなど外で遊ぶ場合も同様になりますが、状況に応じて柔軟に対応していきます。
 - ③ 登下校中は、お子様の健康状況等に応じ、マスクの着用についてご家庭でご判断ください。着用しない場合は、近距離でのおしゃべりなどはしないようご指導ください。
- ※今後、学校内での感染がみられる状況になった際は、変更する場合があります。ご理解をお願いします。

安全な横断を！

学校近くの横断歩道では、毎朝、子どもの安全な登校を見守る地域の方が立ってくださいます。元気にあいさつをする子どもたちの笑顔はとても素敵です。しかし、横断前の安全確認（立ち止まって左右を見る）が十分ではないと感じる場面もあります。自動車は必ず止まってくれるとは限りません。学校でも「止まって確認」の指導を行います。ご家庭でも外出の折に横断歩道の渡り方をご指導ください。よろしくお願いします。